

洛友會々報

京都市左京區吉田
京都大学工学部
電気科教室内
洛友會



鞍馬の火祭りに老先輩は加茂の堤をテクテク歩いて出かけたものであ
る。今日は電車の便があるので何でもないことになった。夜半から夜明
けに至る神事で、制帽や制服に、やけばこをこしらえたのも思い出深
く、祭りの栗飯の味も忘れられない。
(寫眞。由岐神社の樓門)

歳末に当りて

洛友会々報は本号を第廿一号としてお目見得することになり
ました。昔は光陰矢の如しと言つて月日のたつ早さを言つてお
ります。全く会報が号を重ねる毎に、時間は過去に繰り込まれ
て行きます。

洛友会は各地に支部が出来まして各々活潑な動きをやつてお
られますが、会報には余りその様子が発表されないのは残念で
す。

次に、会員の海外視察が相当数ありますが、海外から短信で
よろしいから一筆書いて下さつたら、会報紙上を賑わすばかり
でなく、海外の事情を知ることが出来、曾遊の会員には、どん
なに親しみと懐しみを覚ゆることでありましょう。更に絵端書
にて便りを頂けば、その絵によつて文字以外の喜びがありま
す。

これから海外に出かけられる会員に切にお願い致します。
最後に会費の件であります。洛友会の如き任意団体では、
会費がその原動力であります。会費の未収率が遂に、会
そのものを殺してしまうのです。卑屈なようですが、会費を願
いますと懇願せねば当事者は会を運営することが出来ません。
そこで、せつば詰つて会費を支払つて下さらぬ会員には会報
も名簿も会合案内も発送しないことに決定しました。と言うの
は、これ等の会員は収入の無い支出ばかりです。

こんなことを第三者が読んだら我々は恥かしいことですが、
敢て恥ぢを忍んで書いた心情を察して下さい。会費のお支払を
御願ひする次第です。

關西支部總會

九月廿九日(土)午後五時より大阪
市北区桜橋、大阪毎日会館日立シ
ーム階上において關西支部總會
を開催した。

先づ映画鑑賞後、午後六時より総
会を開催し、大谷幹事司会の下に石
沢支部長の挨拶、昭和三十一年度の決
算報告を承認し、次いで昭和三十
一年度予算を満場拍手裡に可決した。
清野教授の教室の近況、山村幹事の
本部の状況報告があつて總會を終了
し午後六時半より懇親会に移つた。
懇親会はパーティ式としたため終
始なごやかな雰囲気となり、互いに

談笑裡に旧交を温めつゝ、時を過し
た。

最後に加藤副会長の音頭にて洛友
会万歳を三唱して午後八時に散會し
た。

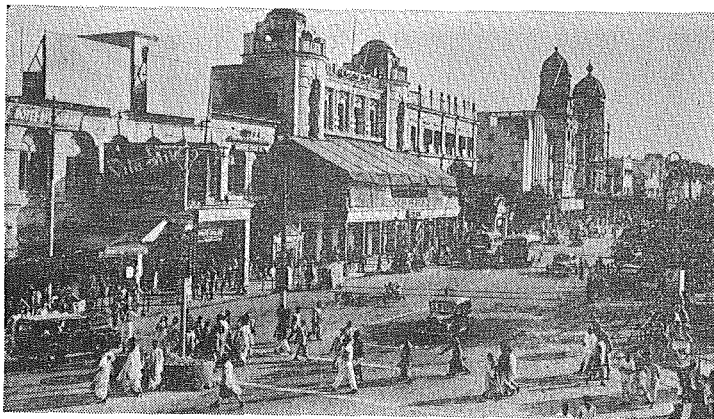
尚、本總會の開催に当り会場その
他につき、日立製作所大阪営業所長
小宮義和氏及び同次長木村章介氏に
多大のお世話になつたことを茲に感
謝します。

【出席者】

- 大元 鳥養利三郎
- 二堀 鹿造
- 四石沢 四郎
- 五七里 義雄
- 六上林 一雄
- 光野 重威

昭

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|
| 二八 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二四 | 二三 | 二二 | 二一 | 二〇 | 一九 | 一八 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一二 | 一一 | 一〇 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | 七 | | | | | | | | | | |
| 中川 | 大和 | 高谷 | 小森 | 大西 | 加納 | 柴田 | 森島 | 岡田 | 松田 | 八隅 | 秋葉 | 近藤 | 氏原 | 高橋 | 谷村 | 西村 | 板倉 | 馬淵 | 大谷 | 清野 | 小寺 | 尾崎 | 宮本 | 土井 | 尾形 | 上西 | 横田 | 安本 | 森 | 林 | 熊谷 | 前田 | 木津 | 津田 | 山本 | 宮崎 | 加藤 | | |
| 正憲 | 勝 | 克巳 | 幹男 | 俊一 | 忠勝 | 宏 | 省三 | 清二 | 功 | 久明 | 文治 | 岩雄 | 修 | 愛道 | 太郎 | 重三 | 清保 | 重三 | 泰之 | 武 | 正曉 | 弘 | 政幸 | 善勝 | 潔 | 眞三 | 亮二 | 健助 | 重憲 | 正一 | 喜男 | 圭藏 | 安道 | 三郎 | 佐加枝 | 忠行 | | | |
| 政弘 | 米原 | 林 | 武藤 | 龍沢 | 林 | 宗明 | 信善 | 徹 | 深井 | 松岡 | 行雄 | 角田 | 寛 | 野村 | 中山 | 富住 | 清保 | 国富 | 小林 | 四郎 | 辻 | 藤吉 | 田井 | 山下 | 青山 | 桂田 | 和田 | 吉田 | 河合 | 木村 | 次男 | 洪二 | 昌博 | 徳勝 | 正次 | 正雄 | 梁之 | 工藤 | 寿男 |



- 二九 西山 節男 林 克知
- 森 幹夫 岸木 貞雄
- 山本 茂樹 堀江 孝雄
- 島原 陽一 長谷川 利雄
- 野田 権祐 市川 孝雄
- 中野 嗣郎 北島 秋
- 天野橋太郎 池田 成二
- 三〇 中尾 英夫 飯塚 啓吉
- 九鬼 一夫 中村 皓
- 船川 繁 山口 益生
- 安井 貞三 長町 恒資
- 音屈 久雄 橋本 宗久
- 梶山 皓美 宮本 一
- 鍵山圭一郎

カルカッタにて 昭18 河原 勇

東京支部旅行会

十月七日代々木に集合、八時三十分出発(実は出発予定は八時であつたが集合の確率分布が尾を引いたため三十分遅れてしまつた)。代々木を出て甲州街道に沿ひ目的地小河内ダムに進んだ。途中本願寺墓地、松沢病院(精神病院)明治の文人徳富芦花の住んでいた芦花公園、キュービーマヨネーズの工場を通過する。キュービーマヨネーズの玄関には大きなオルゴールがあり、時刻を告げることである。何か西部劇に出て来そうな殺風景な町で

十月廿七日羽田を発つて空路無事廿八日の午前十一時半(日本時間午後三時)カルカッタに到着しました。マニラ、バンコック、カルカッタと暑い所ばかりでした。カルカッタでは今年は雨季が一カ月延びたそうで、十月の半ばまで雨が降り続いたようですが、これからは次第に良くなるそうです。ホテルではまた冷房をやつていますが、丁度日本の七月の初め位いの暑さ感せられます。

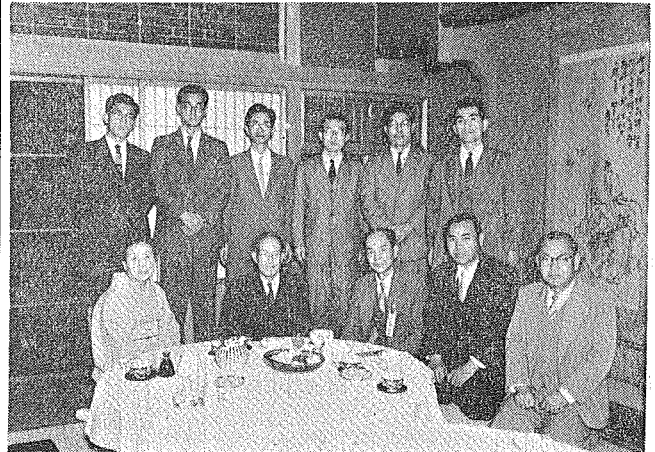
ある。然し日本で初めて美しい布を造るのに完成して調布という名を貰つたという歴史を持つたのだから随分古くから有る町に違ひない。附近には飛行場が有る。暫らくすると府中へ着く。府中のはずれには新田義貞と北条氏の合戦で有名な分倍河原が有る。筆者は吉川英治氏の宮本武蔵の中の武蔵が戦死者の白骨を集めて墓を作り、死んでしまえば新田氏も北条氏も無いのだと少年に訓しなが二人で合掌したという話で分倍河原を記憶している。

立川市に近づくると左手に多摩川の清流が見える。又江戸時代二人の兄弟が私費まで投じて苦心の末、完成したという玉川上水がある。その深く澄んだ流れを見ると江戸時代に個人二人の兄弟は玉川の姓を幕府から貰つたことである。やがて福生町を通る。この福生の字が正しく読めたら、クイズ当選の実力保持者である。答は「ふっさ」である。

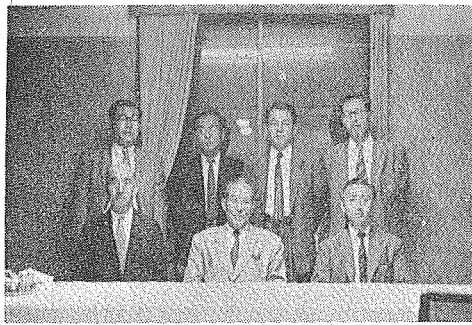
見学後、バスに乗り一般用の見晴し台で一時間半休憩。会員、奥さん、子供さん皆盛んに昼食を喰べる。帰路に着く。青梅まで同じ道を通つたが、青梅から青梅街道を通つて多摩湖、狭山湖に向う。途中で自己紹介をやる。やがて多摩湖に着く。多摩湖、狭山湖は東京都の水道源であり、又公園としても比較的美しいので有名である。こゝで二十分間休憩。湖畔を逍遙する。まるで詩的表現だが、実は附近には人が一杯、行き交う自動車は砂ぼこりを上げるので半乾式と言つたところ。こゝで最後の休憩をして解散地へ向ひ荻窪、新宿、渋谷で解散した。参加者皆楽しく過ごした一日であつたが、秋の運動会とかち合つたため参加出来た方々が少なかったのは幹事の不注意であり、お詫び致します。(櫻井繁樹記)

- 【出席者】
 明四〇 宮井 誠吉
 四三 滝口 三雄
 四五 古田 正康

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 一六 | 一四 | 二 | 九 | 六 | 四 | 三 | 二 | 一四 | 一三 | 一一 | 一〇 | 九 | 八 | 七 | 六 | 四 |
| 山田 | 石谷 | 正木 | 高崎 | 石川 | 横田 | 安達 | 岩本 | 岡本 | 高田 | 山口 | 西村 | 高見 | 乙葉 | 大西 | 真崎 | 尚忠 |
| 健一 | 昇 | 知巳 | 喜久 | 弘文 | 準二 | 遂 | 種昌 | 一郎 | 誠三 | 内助 | 舟造 | 祥平 | 真一 | 冬蔵 | 辻 | 秀男 |
| | 横田 | 茂彦 | 平田 | 松井 | 久野 | 清 | 林 | 紀一郎 | 巽 | 良知 | 久長 | | | | | |



長崎 洛友会



仙台洛友会

去る七月七日(日)折からロータリー大会のため御来仙中の鳥養先生を囲み仙台洛友会を開催した。少数とは言え吉田大先輩を始め在仙洛友会員100%の出席で盛会であった。折りも折りであったので、ロータリーに関する詳細な御講義を談笑裡に拝聴した。その起源、精神、組織特徴等、全世界をバックに余す処なくお示し下さった。

仙台洛友会

- 一八 小田 敏彦
一九 木村 小一
二〇 老田他四郎 南野 幸雄
二一 泉 秀雄
二二 桜井 繁樹
二三 瀬野 健治 萩原 宏
二四 山本 春也
二五 田川 康夫 中田 高義
二六 新 高榎 亮
二七 白杉 茂 間瀬 光朗
二八 加納 寿夫 藪内 敬一
二九 岩原 皓一
出席数 四九名 家族 四〇名



北海道支部

長崎だより
十月廿五・六日の両日、長崎市の三菱会館で開催された西部地区の一

感銘の余り、中堅どころによるサロタリーの提案もあつたほどだ。とは言ふもの、サロタリーの精神、資格に及ばぬ点があるので、それまでとなつたが、多くのサロタリーの優れた精神はこゝに集つた我々によつて実行に移されるものもあることだろう。
又大学は総てを教える所ではない、突ッ込み方を教えるのだから各自は大学教育を基礎に絶えずクリエイトして行かなければならぬといふ、大学出身者は他者に真似られない優れた点を持つているものだから、実例を挙げてお話し下され温かい御鞭撻を頂戴した。
お話し中、会場の窓を締めるよう御注意あり、さすがは北に住む我々だなと感じる一場面もあつた。
最後に先生を中心に寄せ書と二村教授の腕による記念撮影で有意義に会を閉じた。(山下 実記)

今回の集りにお仕事の都合で御出席されなかつたが、河本九電長崎支店長(昭五卒)、黒田長崎電軌工務部長(昭一卒)には色々お世話に相成り、特に河本支店長には経費一切御負担して頂きました。茲に厚くお礼申し上げます。(SK生記)

十七年振りに拝見する両先生のお姿であるが、多勢の人の中で直ぐに判つたほど昔と少しもお変わりになつておられなかつたが、四海樓に落ちつかれて、お近くに拝見すると矢張りお年を取られたという感じがグツと胸に迫つたが、お話しが進むにつれ、両先生とも昔に変わらぬお元気な御様子を見せつけて嬉しかつた。
落ちつかれる早々から鳥養先生のよもやまの出来事に対する相変らぬ辛辣なる御批判や御意見を拝聴し、談笑のうちに時間も過ぎ、両先生も奥様もお疲れのこと、名残りは書きぬが明日の御予定もあることで寄せ書きと写真を御一緒に撮つて会を閉じた。

ロータリー大会に御出席された鳥養先生及び七里先生の御夫妻を大会の終つた廿六日夕方、市内の四海樓にお迎えして夕食を一緒にさせて頂く。
ロータリー会場にお迎えに行くと三菱造船の前田課長が既に見えておられ一緒に会場に入つた。見ると大会は最後の余興に入つていて渡辺はま子、藤山一郎が長崎の歌を綺麗に飾つた会館で九州オーケストラの伴奏で歌つていた。
余興が終つてロータリーの会員の方々は全員手をつないで、ロータリーの歌を歌われたが、鳥養先生はロータリーのチーフの由で壇上に上られて長崎財界の巨頭中部氏と手をつなされ、無邪気につないだ手を打ち振り歌つておられた。又七里先生は奥様に仲良く並らばれ長身の体を真ッ直ぐにして熱心に壇上に眼をそゝがれておられた。

東京支部
ゴルフ会
拜啓、洛友会の発展をお慶び申上げ、お骨折りのほど感謝致します。さて昨日(十一月七

【出席者】
前田道生(昭一二)
吉田隆房(昭一〇)
小菅佐七郎(昭一四)
野田三郎(昭一六)
平野敏也(昭一〇)
斎藤秀夫(昭一九)
永山盛敏(昭二八)
井上通(昭二八)

北海道支部観楓会
去る十月十四日(日)、北海道支部では札幌郊外の定山溪温泉溪水寮にて御楓会を催しました。北海道の紅葉は本州のそれと違つて一夜にして全山錦を飾り、而もその觀賞期間は極めて短かく、それだけに私たちの紅葉を愛でる気持は到底説明の出来ない切実なものがあります。当日は辛い天候に恵まれ、さゝやかながら和やかなリクリエーションを楽しむことが出来ました。

高、写真は当日会場へ向う途中、名物のりんご園で記念撮影したものです。天然色で無いので背景の真ッ赤なれんごがお目につけられず残念です。
写真(左より)後列。
小田部、片山、中列。
村松、池内、俣野、前列。
副島(池内記、寫眞は副島)

【出席者】
日)東京支部のゴルフ会を小金井コースで催しました。幸い天候に恵まれ、愉快なプレーすることが出来ました。寄せ書は現場から葉書で差出して置きました。(松本久長)

【出席者】
宮崎 吉 (天二)
伊沢 辰雄 (天五)
松本 久長 (天九)
池内 是憲 (天〇)
土方 鹿之助 (天二)
三谷 峰吉 (天三)
橋本 真侃 (天一)
山崎 善真 (天一)
富永 和郎 (天一)
小寺 昇 (天一)
鈴木 卓雄 (昭一〇)
佐々木 雄 (昭一〇)



信友会

信友会例会

大正六、七年卒業生で組織する信友会(この名称は我が電気教室の創設者難波先生が名付けられたもの)は毎年少くとも一回は家族連れで京都又は東京にて開催することにして

本年は十一月三日文化の日を期して開催した。午前十時、京阪三条駅に続々夫婦連れで集り、新装成れる金閣寺を見物し、二条城にて折から開催中の文化展を鑑賞し、午後一時より室町荘にて懇親会を開催した。初めは孫の数や噂などをしていたが、祇園舞妓の京の四季や、祇園小唄(校歌)のあでやかな舞い姿を見て一同メロトルを上げ、不断の恐妻家も何のそのと隠し芸を出して愉快な一日を過ごした。

【出席者】

- 上林 一雄 光野 重威
松田 長三郎 山野 一行
阿部 信清 乙藤 真一
加藤 信義 工藤 加寿男
岡崎 龍吉 宮崎 佐枝

会費領収

九月二十一日より到着の分



Table with columns for years (昭二, 昭一, 大正) and names (松本, 秋葉, 坂本, etc.)

Handwritten calligraphy and stamps, including '仙臺洛友会' and '板東総之'.

Table with columns for years (昭二, 昭一, 大正) and names (津田, 藤原, 小立, etc.)

Table with columns for years (昭二, 昭一, 大正) and names (近江, 森田, 石井, etc.)

Large table with columns for years (昭二, 昭一, 大正) and names (畑村, 竹屋, 今水, etc.)

Table with columns for years (昭三, 昭二, 昭一) and names (山下, 富村, 立石, etc.)

Handwritten calligraphy and stamps, including '長崎洛友会' and '馬場利雨'.